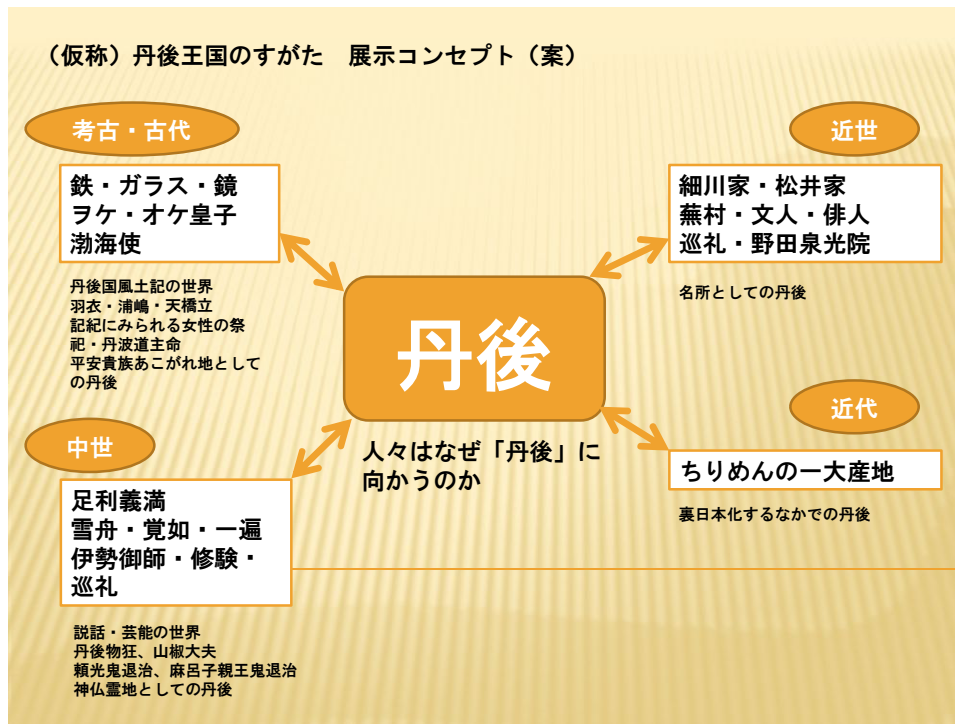


平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A3	取組 名称	丹後地域を題材とした博物館展示の主題・構成に関する研究
研究代表者：		文学部 (研究科)	職・氏名： 教授・小林啓治
研究担当者： 京都府立大学 (榎木謙周・横内裕人・東昇・藤本仁文 (敬称略)) 外部分担者・協力者 (京丹後市教育委員会・小山元孝氏ほか)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)			
京丹後市教育委員会・京都文化博物館			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後にかかわる過去の展示をリストアップし、それらの図録を検討した。</li> <li>・展示コンセプトの検討—当初は時代別 (原始・古代・中世・近世・近代) の柱をたて、各時代のテーマをもちよって検討。しかし、時代別案は、近世・近代の展示が難しいことが判明し、キーワード案に変更してコンセプトを再考した。</li> <li>・展示候補のリストアップと絞り込み—100以上の展示物のリストアップを行い、コンセプトにふさわしい展示物を選定していった。</li> <li>・近代の展示物について検討—「丹後王国論」をメインにした場合、過去の反映→現在の衰退といったイメージでとらえられかねないため、近代をどう位置づけるかが重要と判断し、近代の文化遺産についてもめぼしいものを調査した。</li> <li>・近代化遺産への注目が高まり、ことに丹後には近代行政文書が他地域よりも圧倒的に多く保存されていることから、展示・図録に使うことも視野に入れて調査を進めた。</li> </ul>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>①時代別案からキーワード案に変更し、4つの柱 (「交流」「伝説」「霊地」「生産」) で展示を構成することで結論をえた。丹後を閉じた世界ではなく、外部に開かれた地域として、伝説を通じた文化的な影響力をもった地域として、あるいは、景勝とあいまった宗教的な聖地として、さらに外部世界に影響を及ぼす生産の拠点としてとらえることを展示のコンセプトとして確定した。</p> <p>②100点以上の展示物リストのうち、46点については出展の仮交渉を終えた。</p> <p>③「ちりめん」にかかわるものをどう展示するかを重点的に検討した。近代化遺産としての「ちりめん」工場、機械などの生産用具などは重要であるが、展示には不向きなので、近代化遺産として別途研究することとした。展示物としては、天橋立をあしらった着物を候補として選定した。</p> <p>④丹後地域は近代行政文書が豊富に残されている地域である。そのうち全国的に見ても大変貴重な兵事史料については、展示には使わなくても、図録で活用することを視野に入れ、未翻刻のものを翻刻した。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>京都文化博物館で「海の京都—丹後展」を開催予定 (2016年末から)</p> <p>『ACTR 報告書：丹後地域を題材とした博物館展示の主題・構成に関する研究』 (府大図書館で閲覧可)</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b>		文学部・教授・小林啓治	
Tel:075-703-5254		E-mail: orochi@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

【時代別案】



【キーワード案】

「海の京都～丹後展～」展示コンセプト(案)

丹後

日本海に面した総延長約300kmにわたる海岸線は、外部との交流を妨げるものではなかった。海を介して出入りした人・モノは丹後の歴史に大いに影響を与えてきた。丹後に向かったもの、丹後から出て行ったもの、互いに影響しあいながら、現在もその歴史は続いている。

今回は、丹後の歴史を語る上で特徴的な4つのキーワードをもとに展示を構成し、丹後と関わりのあった地域の歴史を透視するものとする。

第1部 交流

人やモノの交流点としての丹後

- 海を越えてもたらされるもの
- 行きかう人々のすがた

第2部 伝説

伝説の産地としての丹後

- 風土記の説話
- 大江山鬼退治
- 麻呂子親王鬼退治
- 茶能

第3部 霊地

神仏霊地としての丹後

- 瀬川の来訪
- 修験の霊地
- 日本三景天橋立

第4部 生産

ものづくりの国としての丹後

- 鉄・ガラス
- 漁業
- ちりめん



寛永三年越前守権兵衛四神鏡  
(京丹後市蔵、重要文化財)